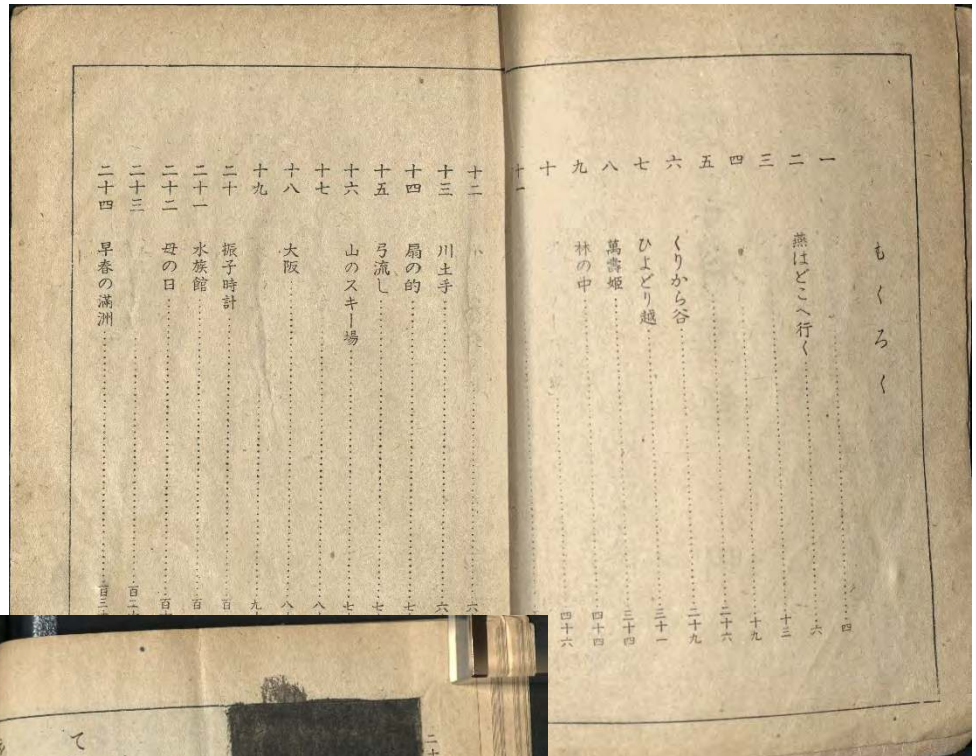


# 墨塗り教科書



期間：2019年5月1日～8月29日

## 解説

「墨塗り教科書」とは、戦時中に使われた教科書(特に国民学校の第五期国定教科書)から、一部の教材を、昭和20年(1945)の敗戦以後に「墨塗り」して使った教科書のこと。敗戦による価値観の転換を象徴するエピソードとして、通史等でしばしば取り上げられている。

先行研究としては、吉田裕久『戦後初期国語教科書史研究』と、菅修一の一連の論文(詳しくは文献リスト参照)があり、おおむね次のような点が指摘されている。

- ・「墨塗り」といっても、削除すべき部分を切り取り、貼り合わせる等の方法で削除がなされており、実際に墨を塗るのは、こうした方法で削除できない部分になされていることが多い。
- ・文部省は、昭和20年9月と、21年1月と、2回教材の削除に関する通達を出している。前者は文部省が自主的に行ったもので、年度後期使用の国民学校国語教科書を対象とする。
- ・後者は占領軍に内容の承認を得て行ったもので、教科は算数にも及び、神道関係や軍記物等、より広範囲に教材削除を指示している。またこの間には、占領軍の意向で修身、国史、地理の授業そのものが禁じられた。
- ・但し21年4月からは急遽編纂された暫定教科書が使われる予定で、年度末を控えた1月末の通牒にどれほどの有効性があつたかは疑問。
- ・「墨塗り教科書」を調べてみると、削除されている教材には、異同がみられる。

さて、当館で以前に調査を行ったところ、以下6点の「墨塗り教科書」が確認できた。

- ① 『初等科国語』二、榛原第一国民学校旧蔵
- ② 『初等科国語』三、同前  
『初等科国語』四、③同前、④同前「教師用」、⑤同校 F.Y. 使用 (以上は同じ寄贈者から受贈)
- ⑥(高等女学校?)4年 N.Y.使用『地理』国土国勢篇

具体的に見ていくと、③と⑤はもともとと同じ教科書であり、削除の方法に若干の差がみられるが、基本的には同じ部分を削除している。削除部分については、③⑤の教師用指導書であり、同じ学校で使われた④も同様である。②の『初等科国語』三は、年度前半期用のため、文部省の通牒では触れられていない。これら、①～⑤は、基本的に、教材(逸話)単位で切り取り、貼り合わせ、墨塗りを行っており、一部を除いて教材中の一文や語句を削除することは行っていない。一方、⑥は、「軍事上」といった用語や、大東亜共栄圏に言及した部分を文・節単位で墨塗りをしている。

文部省の通牒と、当館所蔵「墨塗り教科書」削除部分との関係は、①、③～⑤の削除部分と合わせて、次頁以降の表に示した。なお、削除部分の内容については、『日本教科書大系』近代編8国語五を参照している。

①の『初等科国語』二では、「もくろく」(目次)には、教材7-9,14,15,21のタイトルに墨塗りの上、鉛筆で「止」と記されてい

る。いずれも、第一回通牒で「削除すべき教材」とされたものである。本文では、該当教材の切り取り、貼り付けが行われているが、それ以上の墨塗りはされていない。一部削除対象が読める状態になっている。他の箇所では、削除すべきとされた教材が奇数ページちょうどで終わっており、狭い意味での墨塗りがなされているのは、「もくろく」のみになる。

一方、②、③～⑤の『初等科国語』三、四では、①と異なり削除する教材がページの途中に来た場合、「塗り忘れ」と思しき箇所を除くとときちんと墨塗りがなされている。なお、削除対象でも要注意でもない(但し、第2回通牒では削除対象となった「10.グライダー日本号」が、続く「11」「12」と合わせて切り抜き、貼り付けがなされている。

こうした点を見ると、当館所蔵の①～⑤は、基本的には第一次通牒に沿った形で削除がなされ、第二次通牒の影響は全く受けていないとみることができる。この点、吉田が検討した国語教科書には、第二次通牒の影響が見られるのと対照的である。

こうして削除された教材を見ると、軍隊や軍人が登場する教材(①の7,9,14,15,21、②の15,16、③～⑤の5,11,12,19,23)、植民地支配に関する教材(①の8、③の4、③～⑤の3,4)、加えて大東亜共栄圏との関係でクローズアップされた、近世初頭日本人の南方進出に関する教材(②の24、③の1)が削除対象になっていたことがわかる。削除されていないものに注目すると、②で日露戦争の英雄でありつつも、直接軍務を扱ったものではない「20.東郷元帥」や、同様日露戦争の軍神を扱い、文部省は要注意としつつ、削除されていない③～⑤の「17.広瀬中佐」があげられる。17は教師用の④を見ると、「非常時局に於ける奉公の赤誠」を培おうとする、軍国色の強い指導目的を示しているにもかかわらず、③では、「旅順港外 うらみぞ深き」部分が「要注意」だとする、鉛筆で書き込みがあるのみである。エピソード自体は部下を救おうとした行為であるためであるうか。

一方、⑥『地理』国土国勢篇は、鉛筆で「しるし」をした上に、文章を墨塗りして読めなくしたものと、単に鉛筆でしるしをしただけの2種類の消し方がみられる。41頁までは墨塗りがなされているが、それ以降は鉛筆のみである。また、41頁以前には、しばしば、授業での内容を補記したような書き込みが見える。これは類推するに、当初削除個所に鉛筆で印をつけ、授業が進むにつれ逐次該当箇所の墨塗りを行っていたものの、昭和21年1月11日付文部次官通牒「修身、国史、地理授業停止ニ関スル件」を受けた通達が学校に届き、授業中断に至ったためか。さらに文部省は、こうした教科の教科書を、児童生徒に渡っているものを含めて回収する通牒を出しているが(昭和21年2月12日付文部次官通牒「修身、国史及び地理教科用図書ノ回収ニ関スル件」『文部行政資料(終戦教育事務処理提要)』第二集371-4頁)、これは徹底しなかったようだ。当館に寄贈されたものもそうだし、「墨塗り」箇所も京都府立図書館所蔵のものを使って復元することができた。

## 『初等科国語』二(3年生後期用) ①

	タイトル	一	二	内容
1	神の剣	△	替	神武天皇が東征中の熊野で神から剣を賜る
2	稲刈			両親が稲刈弟が遊んでいるところに、学校帰りの姉が立ち寄る
3	祭りに招く		×	「とし子」と「ゆり子」の往復
4	村祭		×	唱歌の歌詞
5	田道間守(たじまもり)	△		垂仁天皇の命で外国へ、任を果たして帰国するも天皇は死亡していた
6	みかん		替	みかんが芽吹いてから結実、収穫、出荷されるまで
7	潜水艦	×	×	艦長からおいへの手紙形式。メカニズム
8	南洋	×	×	常会で日本が占領した各地やタイの幻灯を見る
9	映画	×	替	詩。一枚の幕に山が川が家がビルが戦車が軍艦が
10	聖徳太子			他の子どもが騒ぐが父の前で逃げ隠れせず
11	養老			会話形式で酒湧伝説。これを機に改元
12	ぼくの望遠鏡			虫眼鏡、老眼鏡レンズ、画用紙で作成
13	火事			警防団員の父が出動
14	軍旗	×	×	唱歌歌詞。天皇下賜のそのの尊さをたたえる
15	ぬもん袋	×	×	慰問袋に手紙を入れて送ると、礼状が知らぬ兵から届く
16	雪合戦		×	体操の時間の旗取り合戦の情景
17	菅原道真			学問だけでなく弓を取っても秀でていた
18	梅			咲いたのを見た人々のことば
19	小さな温床			チューリップが咲き、兄妹の会話
20	雪舟			絵を描いて叱られるが涙で描いた鼠で和尚も認める
21	三勇士	×	×	爆弾を抱えて敵陣へ突入、突撃の先陣に
22	春の雨			詩。川辺に降る情景
23	大れふ			イワシが大漁
24	東京			各地を映した映画を見る

## 『初等科国語』四(4年生後期用) ③④⑤

	タイトル	一	二	内容
1	船は帆船よ	×	×	唱歌歌詞。安南やシャムの日本人町へ向かう
2	燕はどこへ行く			渡りの習性
3	バナナ	×	替	台湾のバナナ畑の説明
4	大連から	×	×	街の様子など転任?して半年たった元教員より
5	観艦式	×	×	詩。艦艇の雄姿、旗艦長門、御召艦比叡、天皇旗
6	くりから谷		×	木曾義仲が奇襲で平維盛を破る
7	ひよどり越		×	源義経が崖上から平家本陣を奇襲
8	万寿姫		×	源頼朝に仕え幽閉されていた母唐糸を救う
9	林の中			詩。鳴る落ち葉、鳥の声
10	グライダー日本号		×	学校で作った。一番長く飛んだのでこう名付けた
11	大演習	×	×	湯茶接待の手伝い、拝観、兵士の民家宿泊
12	小さな伝令使	×	×	戦場での伝書鳩、傷つくも役目果たしてこと切れる
13	川土手			詩。四季の情景
14	扇の的		×	屋島で那須与一がみごと射貫く
15	弓流し		×	源義経海の馬上で面目のため弓を捨て置かず
16	山のスキー場			先生に連れられて
17	広瀬中佐	△	×	唱歌歌詞。日露戦争で部下を探して戦死する。「杉野はみずこ」
18	大阪		×	各地の様子
19	大砲のできるまで	×	×	工場での工程
20	振り時計			ガリレオが原理を発見
21	水族館		替	兄に連れられて様々な魚介を見る
22	母の日		替	姉弟で母起床前に家事をすます
23	防空監視哨	×	×	詩。擬人化、「かうして立ってゐる私たち」
24	早春の満州		×	スケート場仕舞、レンゲ咲き鷹が北へ

タイトルに塗りつぶしがある教材が当館所蔵教科書から削除されていたもの

一は昭和20年9月20日付「終戦二件フ教科用図書取扱方ニ関スル件」で×は「削除スベキ」、△は要注意教材を示す

『文部行政資料(終戦教育事務処理提要)』第一集P217-9より

二は昭和21年1月25日付「国民学校後期使用図書ノ削除修正箇所ノ件」で×は全文削除、△は要注意教材

替は語句、文章の修正が指示されたもの。同前第二集P355-370より

『初等科国語』三(4年生前期用) ②

タイトル	内容
1 朝の海べ	詩。兄弟がかけて石を投げる
2 潮干狩	学校で出かける
3 日本武尊	女装して熊襲を殺害／剣で草を払って火難を避け敵を討つ
4 君が代少年	学校の教えを守り日本語を使い、君が代を歌って死んでいく台湾の少年
5 靖国神社	詩。社内各所の情景
6 光明皇后	自ら施薬院に出向き薬湯をつくる
7 苗代のころ	田んぼの情景
8 地鎮祭	学校の講堂建設にあたり
9 苗の名人	上京の際殺されかかるも笛の音に海賊改心
10 機械	唱歌の歌詞。「鉄だよ、音だよ、どとどどん、どどどん」
11 出航	一万トンの客船が神戸を出港
12 千早城	楠正成が奇計で城を守る
13 錦の御旗	大塔宮の錦の御旗を村上義光が奪い返す
14 国旗掲揚台	会話形式で影から高さを測る方法を見つける
15 夏 ※一部削除	詩。工場の前にヒマワリがさきセミが鳴き兵隊が通る
16 兵営だより	甥へあてた手紙。非戦地での日常
17 油蟬の一生	土中から脱皮、短い地上生活
18 とびこみ台	山本君に促され一番高い段より
19 母馬子馬	童謡歌詞
20 東郷元帥	関東大震災で自宅損壊を顧みず赤坂離宮へ摂政を見舞う
21 くものす	窓越しにできてゆく様子を見守る
22 夕日	沈みゆく情景
23 秋の空	詩。高く青く、たたけば音がするよう
24 浜田弥兵衛	近世初頭台湾に渡り不当なオランダ長官をこらしめる

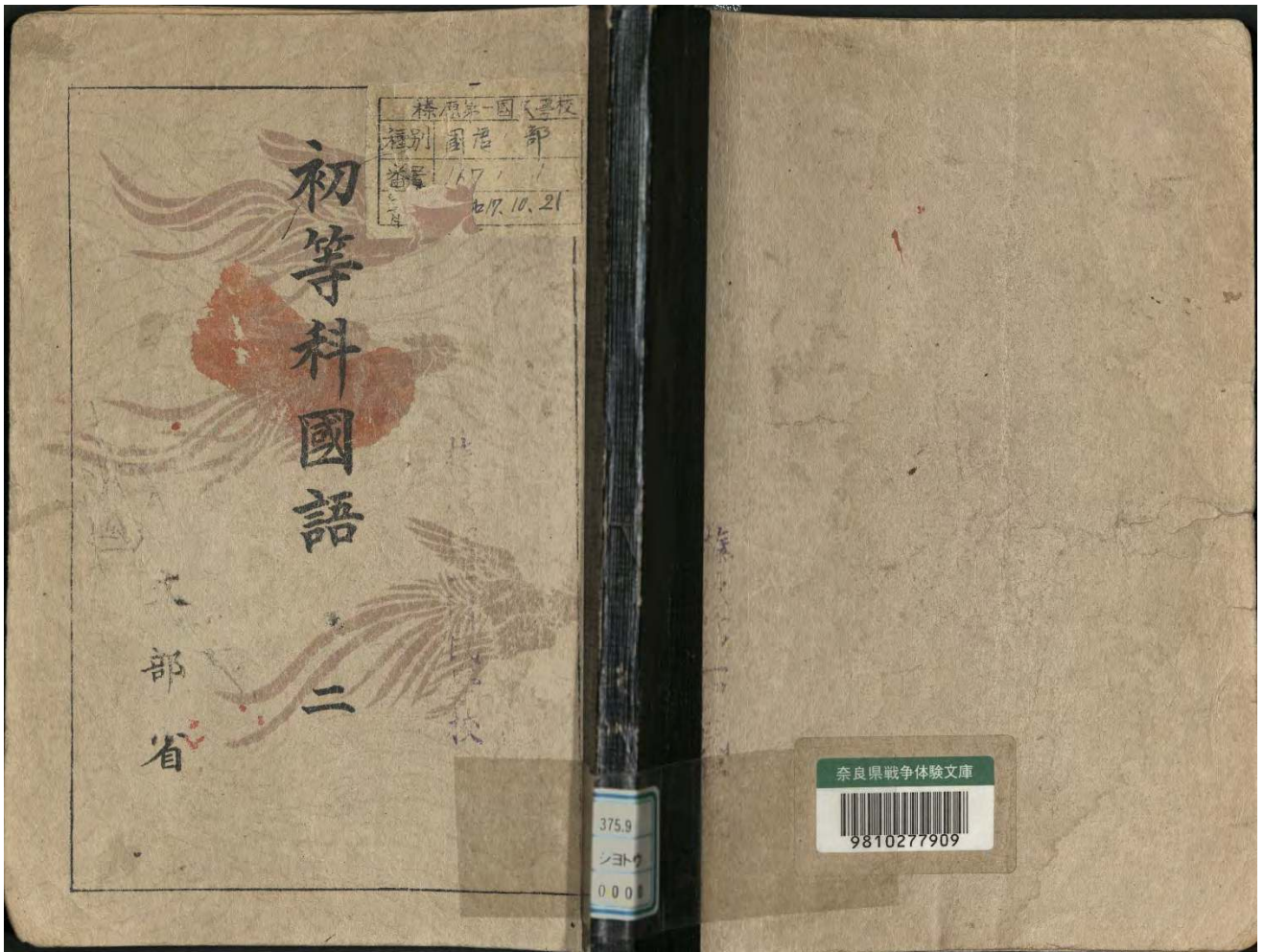
タイトルに塗りつぶしがある教材が当館所蔵教科書から削除されていたもの

『地理』国土国勢篇 ⑥

1	<p><b>生活圏としての自然</b></p> <p>P2-3 大東亜の生活圏は欧米の侵略で狭められてきたが、これを打破するために戦っている。各住民の生存維持、文化伸長、国の発展のためには、我が国を中心とする生活圏が必要</p>
2	<p><b>資源・産業と交通</b></p> <p>P25 西太平洋のみならずインド洋に進出する我々は、世界史上大規模な海洋を支配しているがなお前途に難関あり</p> <p>P36 大東亜共栄圏内で綿の自給を目指している</p> <p>P38 大東亜共栄圏内で食料の自給を目指すべし</p> <p>P40-41 戦争でゴムの供給を絶たれた米国が増産、代替品の生産に努めるも、苦しんでいる (以上鉛筆でのしるしに加えて墨塗り、以下は鉛筆でのしるしのみ)</p> <p>P48 北樺太や東亜各地の油田を採掘し、精油工業は発達</p> <p>P54 機械工業には進んだ科学と技術を要し、国防力を規定。わが国の機械工業最近飛躍的発達、ドイツのような先進国と覇を争う</p> <p>P56 共栄圏唯一の工業国として、役割すべて担当する必要あり。国防上工場分散も進む</p> <p>P58 英米世界市場独占せんと日本を妨害。それは資源ない日独とて国家の存亡にかかわる。ゆえに共栄圏確立確率要。商業は国内に生活必需配給、貿易は共栄圏全体を一生活圏とし、物資移動する進</p>
3	<p><b>住民・人口・集落</b></p> <p>P63-64 インドやインドネシアは英米蘭に圧迫されて気の毒</p> <p>P66 共栄圏建設の任務ある我々、それぞれの生活風俗習慣を理解し、心から協力させるよう導く必要</p> <p>P73 共栄圏建設に努力は欧人の不当な勢力を退け、アジアを真にアジア発展の場として確保、諸民族の永遠の平和という神聖な使命</p>
4	<p><b>国家と勢力圏</b></p> <p>P79 軍備拡充と共栄圏内民族指導を</p> <p>P82 東南アジア諸国の発達が遅れた原因として熱帯に位置した、欧米の圧迫</p> <p>P94-95 第二大戦における連合国側の勢力失墜、</p> <p>P96 従来の軽工業に加えて重工業も発達 国土計画に発展すべし</p>
5	<p><b>皇国と大東亜共栄圏</b></p> <p>※本文に印はないが、目次では項目ごととし</p>

項目名と削除を示すしるし、あるいは加えて墨塗りがある部分の大意、短い語句の削除はここでは除いた





十二	ぼくの望遠鏡	六十一
十三	火事	六十八
十四		七十六
十五		七十九
十六	雪合戦	八十八
十七	菅原道真	九十八
十八	梅	百二
十九	小さな温床	百六
二十	雪舟	百十
二十一		百十六
二十二	春の雨	百二十四
二十三	大れふ	百二十六
二十四	東京	百三十
十一	養老	五十四
十	聖徳太子	五十
九		四十八
八		三十五
七		二十九
六	みかん	二十五
五	田道間守	二十
四	村祭	十八
三	祭に招く	十四
二	稻刈	八
一	神の劔	四

もくろく



かごを持って山へのぼる人、みかんをせおつて山を  
おりて来る人、上手にはさみを使って、みかんを取りな  
がら、みかん取り歌を歌ふ人たちで、急に、山はにぎや  
かになります。

山から取って来たみかんは、一家そろう出て、いろいろ  
な種類に分けて、きちんと、箱につめて送り出します。

その時は、目がまはるほど、いそがしいのです。しかし、  
長い間かはいがって育てたみかんが、日本中にはもちろ  
ん、遠い支那へも、満洲へも、旅だつのだと思ふと、心が

勇んで、みんなにこにこしながら、せつせと働きます。

かうして、あたたかい心で育てられ、しんせつな手で、

荷作りされたみかんは、汽車や汽船にのせられて、ふる  
さどを出発して行きます。

七 潜水艦

春雄、をぢさんは、今度、潜水艦の艦長を命ぜられた。

今日は、潜水艦のことを話してあげよう。

潜水艦は、からだが小さい。だが、軍艦旗を朝風にな

あなたのお人形は、私のポケットにしまつてあります。  
戦争する時も、お人形さんは、私といっしょです。

いろいろとありがたうございました。ときどき、お  
うちのことや、學校のことを知らせてください。私  
も、戦地のやうすを知らせてあげませう。みなさん  
に、よろしくお禮を申しあげてください。さやうなら。

十六 雪合戦

雪が降った。あたりが明かなくなつて、氣がはればれ  
とする。

學校へ行く時、雪の上を歩いて行つた。ふり返つて、  
足あとを見ると、くねくねと、曲つてついてゐた。向か

ふから、友田くと小野くんがやつ  
て来た。

「おはやう。」

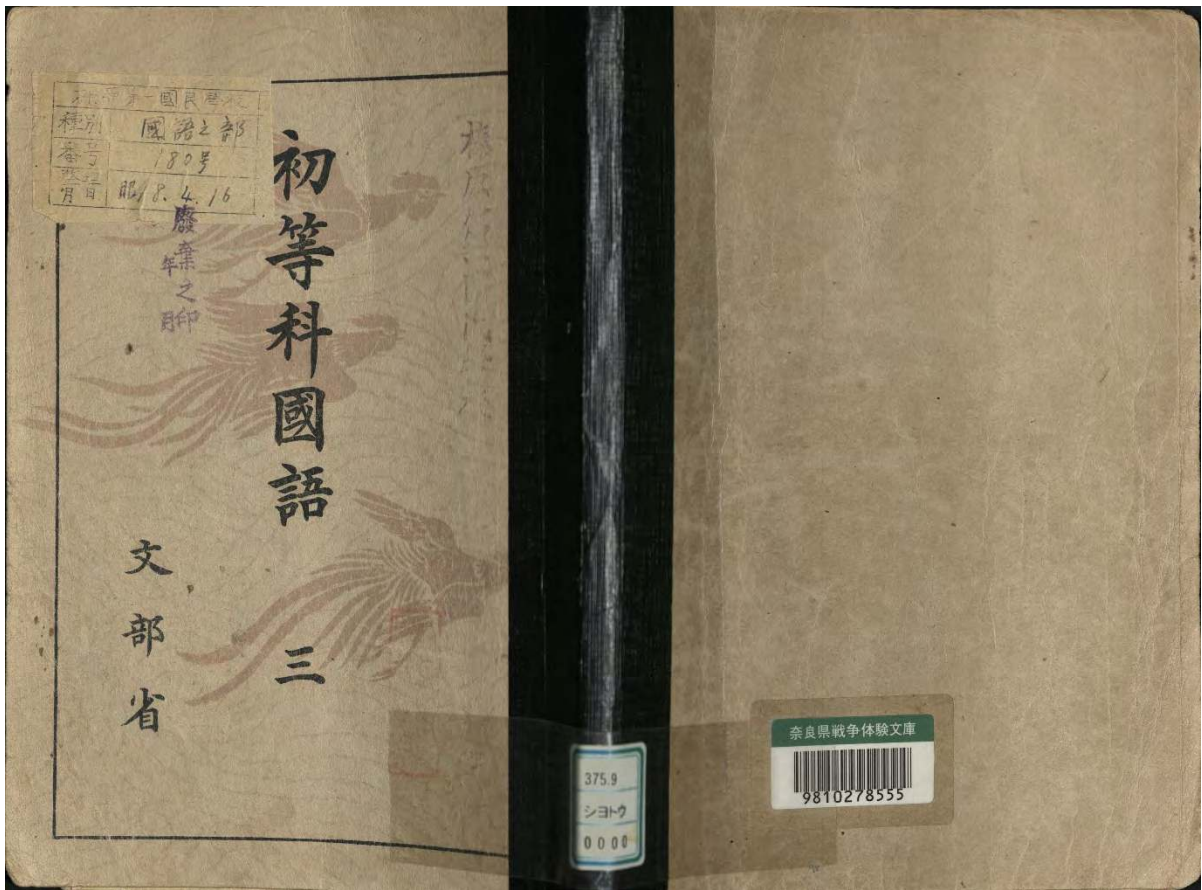
「おはやう。」

三人が、並んでまた雪の上を歩いたら、足あとも、並ん  
でついた。學校の窓も、廊下も、雪で明かるい。



①に特徴的な、切り取り、貼り合せはあるが、削除対象の教材が部分的に読めるようになっている箇所。





種別 國語と部  
巻号 180号  
発行日 昭和三十四年四月十六日

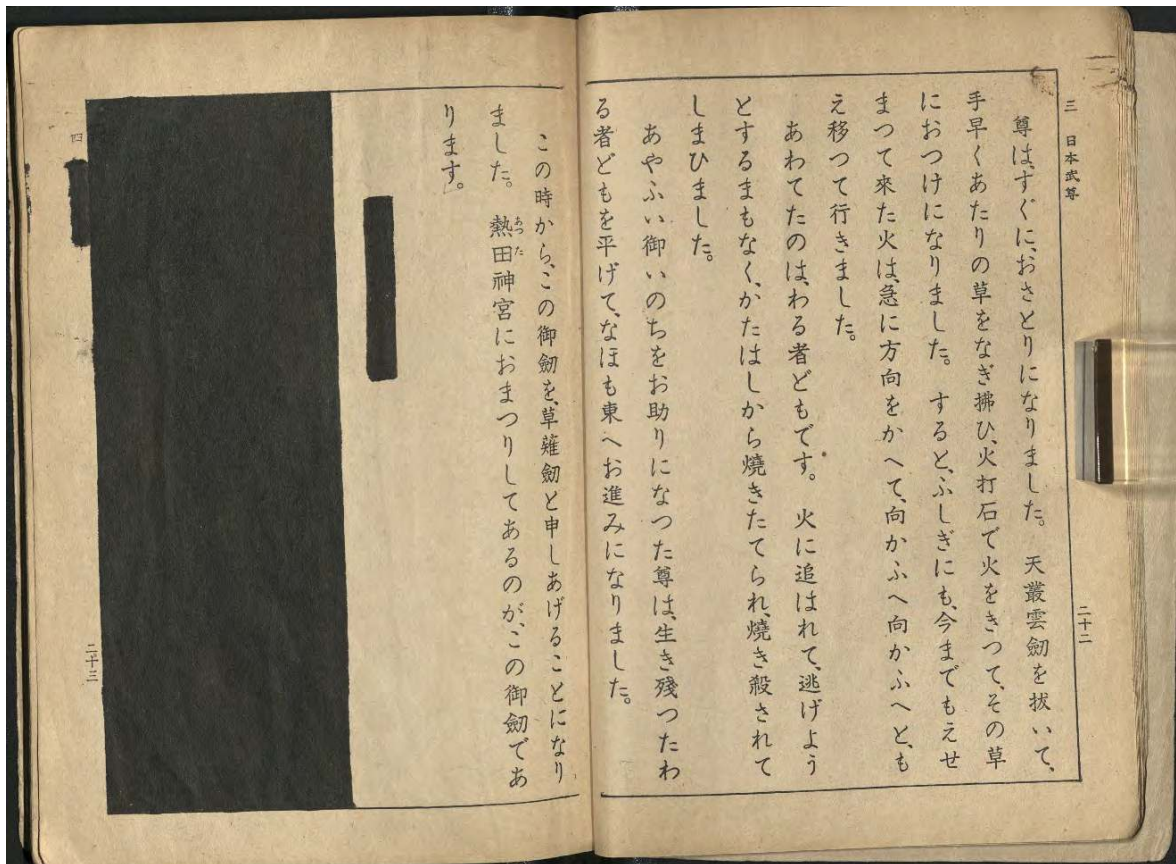
# 初等科國語

文  
部  
省

三

奈良県戦争体験文庫  
9810278555

375.9  
シヨクウ  
0000



三 日本武尊

三十二

尊はすぐにおさとりになりました。天叢雲劔を抜いて、手早くあたりの草をなぎ掃ひ火打石で火をきつて、その草におつけになりました。するとふしぎにも、今までもえせまつて来た火は急に方向をかへて向かふへ向かふへともえ移つて行きました。

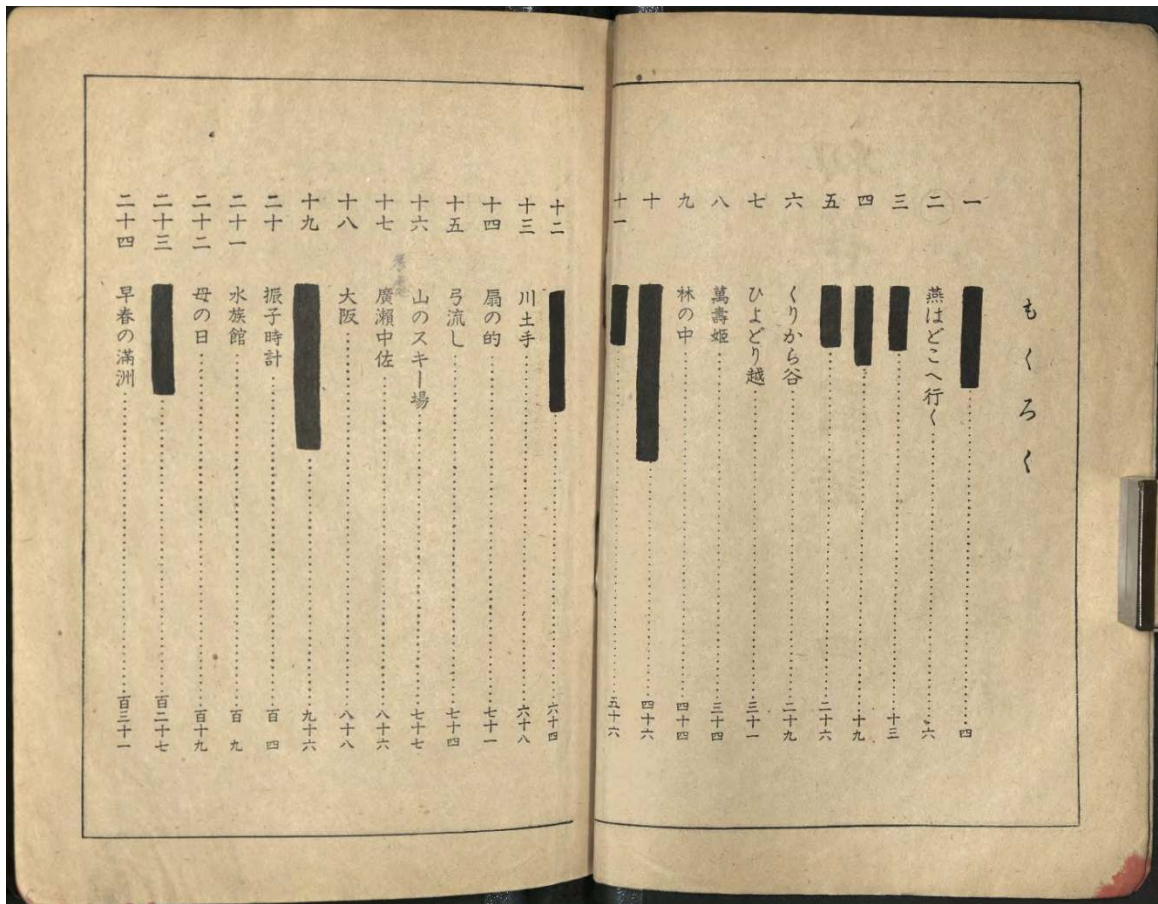
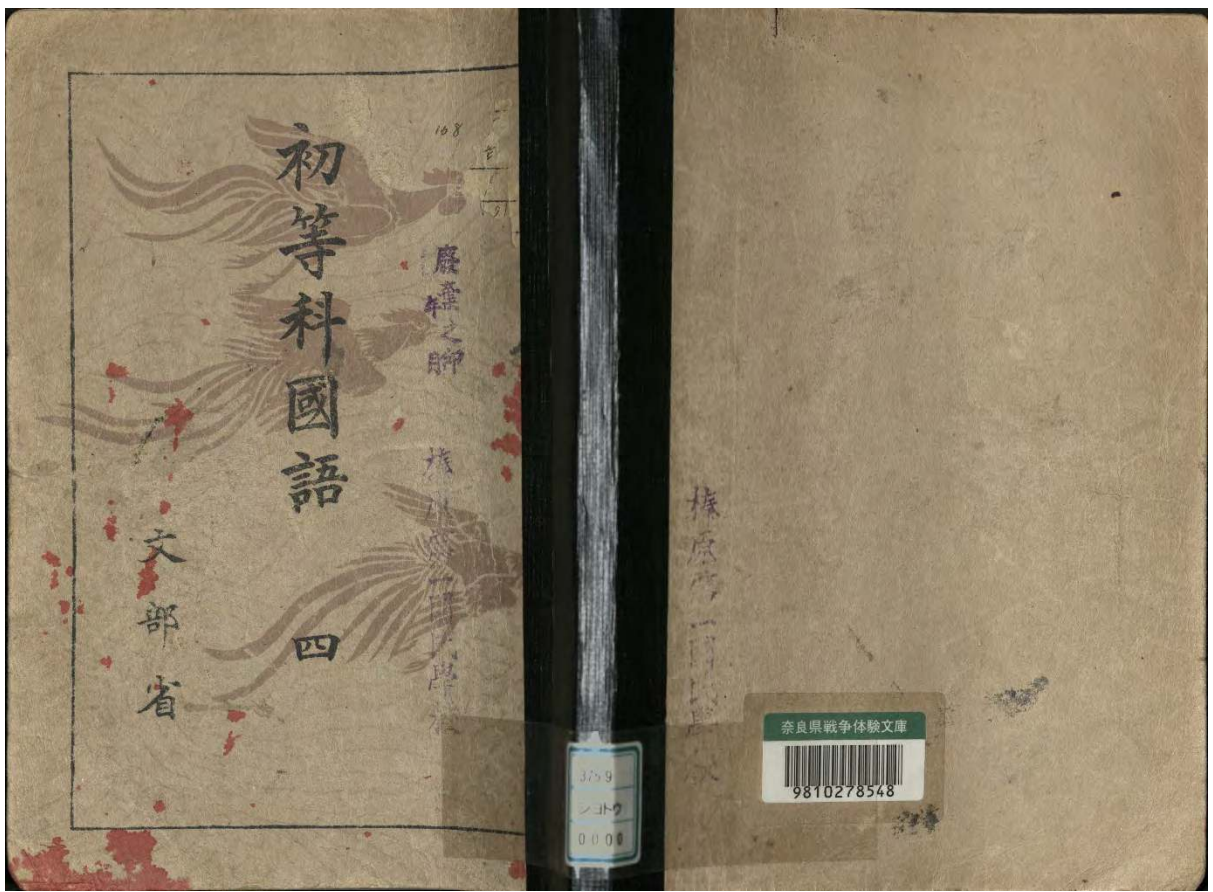
あわてたのはわる者どもです。火に追はれて逃げようとするまもなく、かたはしから焼きたてられ、焼き殺されてしまひました。

あやふい御いのちをお助りになつた尊は生き残つたわる者どもを平げてなほも東へお進みになりました。

この時からこの御劔を草薙劔と申しあげることになりました。熱田神宮におまつりしてあるのが、この御劔であります。

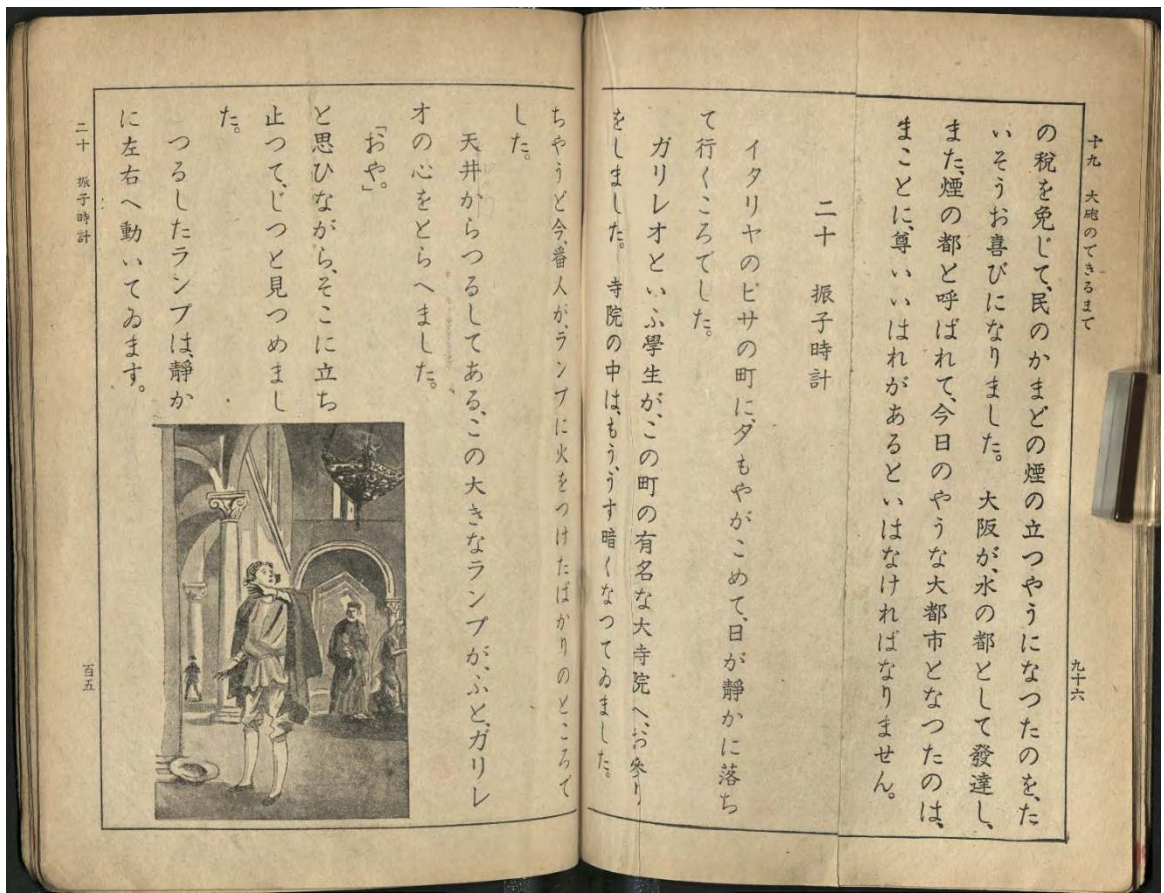
切り取り、貼り合せで除去しきれない部分を墨塗りしたパターンで比較的多くみられた。





表紙の⑤F.Y.使用版は、もくろくを砂けしゴム?を使って削除している。当館所蔵のものはもちろん、先行研究でも目にしない、やや珍しいパターンである。③学校旧蔵版はよくあるタイプの墨塗りである。





P97-102 を切り取っている部分は、表紙の⑤F.Y.使用版と、本頁の③学校旧蔵版共通であるが、⑤では墨塗りをしている P103 後半、P104 前半を③では切り取っているため、見かけに違いが出てきている。



④の教師用（指導書）も同じ個所を③と同じ方法で切り取り・墨塗りで削除を行っている。



# 地理 國土國勢篇

中等學校教科書株式會社

て何人も自由に航行することができ、且つ陸上の交通路より運賃が遙かに低廉なため特に大陸間の交通路としての利用が益盛んになつて來た。しかも戰時に於いては海洋は國土防衛上特に重要な機能を發揮する。現下の世界的大動亂に際しての太平洋や大西洋は、よくこれを證明してゐるし又英本國防衛の上からみたドーバー海峡の役割は今日もなほ注意すべきものがある。

これは海洋が交通と防衛との大きな働きのあることを示すものであるがわれわれは海洋を國土の防衛からのみでなく進んで國家活動の舞臺として確保することが必要である。海に恵まれたわが國の輝かしい歴史を思ふ時、われわれは更に一層海に對する認識を深めなければならぬことを痛感する。

海洋にはこれに附隨して内海、海峽、海灣などがあつて、これらも國家活動の上からみて、それぞれ重要な機能をもつてゐる。

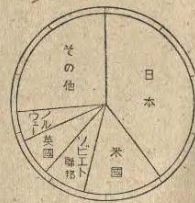


一 生活圏としての自然

二十五

二 資源産業と交通

世界の漁獲高の割合



ランド、南アフリカ、ソビエト聯邦、ヨーロッパ諸國などに多く飼育され、主に羊毛を採取する。従來わが國は羊毛の大部分を濠洲から輸入してゐたが將來は濠洲支那などの牧羊の發展をはからなければならぬ。

四 水産業 漁業には沿岸漁業と遠洋漁業とがある。遠洋漁業のうちで動力船を用ひ、大規模に曳き網をするものをトロール漁業といふ。

北太平洋の日本近海からオホーツク海、ベーリング海に至る北洋漁場と北大西洋の北海を中心とする漁場及びニューファンドランド島附近を中心とする漁場とは、世界の三大漁場といはれてゐる。

わが國は世界第一の漁業國で漁業者の數は世界漁業者總數の過半を占め、漁獲高は世界漁獲高の四割に達してゐる。沿岸漁業ばかりでなく、

遠洋漁業もまた著しい發達を遂げ、北は北洋漁場、アラスカ近海に活躍し、南は赤道を越えて濠洲、ニュージランド近海から南極海にまで發展し、又東はアメリカの近海から西はインド洋に進出し、その活動範圍は極めて廣かつた。さうして古來獸肉に乏しかつたわが國に豊富な魚肉を提供して來ただけでなく、乾製塩製罐詰などに加工して盛んに支那米國などに輸出してゐた。大東亞戰爭により遠洋漁業や水産物の輸出品は制限されてゐるが、將來は共榮圈内への供給を目ざして過進しなければならぬ。

わが瀬戸内海、地方、臺灣、東亞各地の食塩も水産の一つで食用及び工業上極めて大切である。歐米では多く岩塩を用ひてゐる。

五 鑛業 地殻中に埋藏されてゐる鑛物のうち經濟的價値の大きいものには鐵、銅、鋁、鉛、ニッケル、アルミニウム、マグネシウム、金、銀、白金、タングステンなどの金屬性鑛物と、石英、石油、石材、岩塩、加里、塩硝石などの非金属

二 資源産業と交通

四十五

ややわかりづらいが、鉛筆で鍵かっこ斜線をしたうえで墨塗りがある。こういった消し方をしてるのは、P41までで、以後はP45中央部のように鉛筆でしるしがあるのみである。



文献リスト

1.「墨塗り教科書」

請求記号 番号	書名 書き込みなど	著者	発行者	年月
375.9-0000	初等科国語 2 ① 表紙に榛原第一国民学校の備品票があり、整理	文部省著	大阪書籍	1942.7 月日等の記入あり
375.9-0000	初等科国語 3 ② 表紙に榛原第一国民学校の備品票があり、整理	文部省著	大阪書籍	1942.2 月日等の記入あり
375.9-0000	初等科国語 4 ③ 表紙に榛原第一国民学校の備品票片があり	文部省著	大阪書籍	1942.7
375.9-0000	初等科国語：教師用 4 ④ 表紙に榛原第一国民学校の蔵書印あり	文部省著	大阪書籍	1942.8
375.9-0000	初等科国語 4 ⑤ 裏表紙に「榛一学校 F.Y.【氏名】」とあり	文部省著	大阪書籍	1942.7
375.9-0000	地理 国土国勢篇 ⑥ 裏表紙に「四年花組 N.Y.【氏名】」とあり	中等学校教科書著	中等学校教科書	1944.3

※いずれも戦争体験文庫資料で展示終了後の配架場所(所在)は未定

2.先行研究、参照資料集

請求記号	書名	著者	発行者/収録誌	年月	所在
375.9-ヨシタ	戦後初期国語教科書史研究：墨ぬり・暫定・国定・検定	吉田裕久著	風間書房	2001.3	書庫1
200-ハナソ-Z	墨塗り教科書の実情について(論文)	菅修一	花園史学33	2012	書庫1
050-ハナソ-Z	『中等家事』一・二の墨塗り教科書・暫定教科書の実情について(論文)	菅修一	花園大学文学部研究紀要47	2015	書庫1
050-ハナソ-Z	国民学校「初等科国語」五～八の墨塗り教科書の実情について(論文)	菅修一	花園大学文学部研究紀要48	2016	一般
370.8-9-8	国語 5 (日本教科書大系:近代編 第8巻)		講談社	1964.6	一般
372.1-116-1	敗戦と教育の民主化(戦後日本教育史料集成:第1巻)		三一書房	1982.10	書庫1
373.2-モンフ	文部行政資料(終戦教育事務処理提要) 復刻版 第1集	文部省編	国書刊行会	1997.4	書庫1
373.2-モンフ	文部行政資料(終戦教育事務処理提要) 復刻版 第2集	文部省編	国書刊行会	1997.4	書庫1

3.関連図書

請求記号	書名	著者	発行者	年月	所在
370.1-23	学校教育の民主化(教育文庫:3)	赤井米吉著	河出書房	1947.2	書庫1
371.5-0000	民主教育資料	[奈良縣教職員組合編]	奈良縣教職員組合	[1946まへがき]	書庫1
372.1-42	日本における教育改革の進展：文部省報告書：第二次アメリカ教育使節団報告書(文部時報:第880号昭和25年12月臨時特集号)	文部省調査普及局編集	帝国地方行政学会	1950.12	書庫1
041-131-6	教育改革の課題(講座日本の将来:6)	大河内一男,清水義弘共編	潮出版社	1969.5	書庫1

※米軍「奈良軍政府の特別の御厚意」で「組合に頂いた」もので、自由人の概念、学生自治会や学校-社会協力の必要を説く

081-9-758	教科書(岩波新書:青-758)	山住正己著	岩波書店	1970.7	書庫1
375.8-0039	経験主義国語教育の形成[第1,2冊]:前後期(調査資料:7,13 戦後国語教育史)		日本私学教育研究所	1971,1974	戦争体験文庫
810.4-9	尋常小学国語読本(中公新書:423)	高木市之助述/深萱和男録	中央公論社	1976	書庫1
375.9-0039	近代教科書の変遷:東京書籍七十年史	編集委員会編集	東京書籍	1980.9	戦争体験文庫
373.1-30	日本占領と教育改革	鈴木英一著	勁草書房	1983.6	書庫1
372.1-センコ	連合軍最高司令官総司令部民間情報教育局の人事と機構(戦後教育改革資料:2)	佐藤秀夫研究代表	[国立教育研究所]	1984.3	書庫1
372.1-123	対日占領政策と戦後教育改革	久保義三著	三省堂	1984.8	書庫1
372.1-0000	沖縄占領教育政策とアメリカの公教育	玉城嗣久著	東信堂	1987.3	
372.1-133	占領と神話教育:占領軍による記・紀神話の排除過程	久保義三著	青木書店	1988.12	書庫1
375.9-0039	戦前・戦後の小学校教科書内容の比較調査	教科書の質的向上に関する総合的調査研究委員会[編]	[教科書研究センター]	1988.3	戦争体験文庫
372.1-センコ	戦後改革期の教育に関する論説と記事:被占領下の『教育論調』と「教育に関する資料」より(戦後教育改革資料:8)	渡部宗助編	国立教育研究所	1989.3	書庫1
170.2-29	神国日本への挑戦:アメリカ占領下の日本再教育と天皇制	ロバート・O・バーロウ著/生江久訳	三交社	1990.1	書庫1
372.1-センコ	米国対日教育使節団に関する総合的研究(戦後教育改革資料:10)	佐藤秀夫研究代表	国立教育研究所	1991.3	書庫1
070.1-0000	閉された言語空間:占領軍の検閲と戦後日本(文春文庫)	江藤淳著	文藝春秋	1994.1	戦争体験文庫
375.9-133	教科書の戦後史	徳武敏夫著	新日本出版社	1995.10	書庫1
210.76-タケマ	教育(GHQ日本占領史:20)	土持法一解説・訳	日本図書センター	1996.12	書庫1
070.21-58	占領期メディア史研究:自由と統制・1945年(ポテンティア叢書:42)	有山輝雄著	柏書房	1996.9	一般
375.9-0039	教科書の編纂・発行等教科書制度の変遷に関する調査研究:平成7年度~平成8年度科学研究費補助金(基盤研究B(1))研究成果	中村紀久二[研究代表]	[教科書研究センター]	1997.3	戦争体験文庫
778.09-ヒラノ	天皇と接吻:アメリカ占領下の日本映画検閲	平野共余子著	草思社	1998.1	書庫1
372.1-172	占領下日本の教科書改革	H.J.ワンダーリック著/土持ゲーリー法一	玉川大学出版部	1998.9	書庫1
080-18-764	日本が「神の国」だった時代:国民学校の教科書をよむ(岩波新書:新赤版 764)	入江曜子著	岩波書店	2001.12	書庫1
023.8-タニエ	占領下の児童書検閲:プランゲ文庫・児童読み物に探る 資料編	谷暎子編著	新読書社	2004.5	一般
375.312-ヤマモ	小学校社会科の教育課程と教科書:大阪書籍版「小学社会」に見る社会科教科書50年のあゆみ	山本喜志雄編著	大阪書籍	2005.3	一般
027.6-センリ	GHQに没収された本	澤龍編著	サワズ出版	2005.9	参考資料
375.9-サトウ	国語教科書の戦後史(シリーズ言葉と社会:4)	佐藤泉著	勁草書房	2006.5	一般
210.762-オカハ	アメリカ占領期の民主化政策:ラジオ放送による日本女性再教育プログラム	岡原都著	明石書店	2007.10	一般
778.21-イワモ	占領下の映画:解放と検閲(日本映画史叢書:11)	岩本憲児編	森話社	2009.1	一般



372.1-0039	戦争と教科書：国民総マインド・コントロールの謎 増補改訂版 (かもがわブックレット:131)	小柴昌子著	かもがわ出版	2011.7	戦争体験文庫
019.5-タニエ	占領下の児童出版物とGHQの検閲：ゴードンW.プランゲ文庫に探る	谷暎子著	共同文化社	2016.6	一般
210.762-カモミ	ウォー・ギルト・プログラム：GHQ情報教育政策の実像	賀茂道子著	法政大学出版局	2018.8	一般

## 過去の戦争体験文庫資料展示一覧表

回数	期間	展示テーマ
第1回	平成17年11月1日～1月31日	戦争と少年たち（図録なし）
第2回	平成18年2月1日～3月30日	戦時下の国民生活 徴兵される青年たち
第3回	平成18年4月1日～5月30日	戦時下の国民生活 銃後の生活
第4回	平成18年6月1日～7月30日	戦時下の国民生活 占領下の生活
第5回	平成18年8月1日～9月30日	戦争と教育1 ある教育実習生の日記を中心に
第6回	平成18年10月1日～11月29日	戦争と教育2 学童疎開
第7回	平成18年12月1日～19年1月30日	軍隊と地域1 戦地・占領地での軍隊 ビラと軍票
第8回	平成19年2月1日～3月29日	軍隊と地域2 村と軍隊 村役場/在郷軍人会
第9回	平成19年3月31日～6月28日	軍隊と地域3 村と軍隊2 勤労・増産・金属回収
第10回	平成19年6月30日～9月27日	軍隊と地域4 奈良の戦争遺跡 奈良聯隊 奈良海軍航空隊
第11回	平成19年9月29日～12月27日	戦争と手紙1 出征
第12回	平成20年1月5日～3月27日	戦争と手紙2 戦地からの手紙
第13回	平成20年3月28日～6月26日	戦争と手紙3 戦地への手紙
第14回	平成20年6月28日～9月28日	戦争と手紙4 帰還
第15回	平成20年10月1日～12月27日	子どもたちが見た満州1 満州修学旅行
第16回	平成21年1月6日～3月29日	子どもたちが見た満州2 満州建設勤労奉仕隊・満蒙開拓青少年義勇軍
第17回	平成21年4月1日～6月28日	戦争と食べもの1 米の配給と供出
第18回	平成21年7月1日～9月29日	戦争と食べもの2 野菜
第19回	平成21年10月1日～12月27日	戦争と食べもの3 調味料
第20回	平成22年1月5日～3月30日	戦争と食べもの4 代用食
第21回	平成22年4月1日～6月29日	就職先としての軍隊 海軍志願兵
第22回	平成22年7月1日～9月29日	進学先としての軍隊 陸軍士官学校、海軍兵学校
第23回	平成22年10月8日～12月26日	工場 国営兵器工場
第24回	平成23年1月5日～4月17日	貯蓄報国
第25回	平成23年4月19日～6月29日	大和の隣組 戦争を支えた地域組織
第26回	平成23年7月1日～9月29日	大和錦 在郷軍人会奈良支部の活動
第27回	平成23年10月1日～12月27日	産業組合から農協へ 戦時・戦後の協同組合の再編
第28回	平成24年1月4日～3月31日	赤十字 その成り立ちと展開
第29回	平成24年4月1日～6月28日	8.15で終わらなかった戦争 日赤奈良班看護婦の手記から①
第30回	平成24年6月30日～9月27日	灼熱の陽の光の下で 日赤奈良班看護婦の手記から②
第31回	平成24年9月29日～12月27日	病院船の上で 日赤奈良班看護婦の手記から③
第32回	平成25年1月5日～3月28日	原爆の惨禍を目のあたりにして 日赤奈良班看護婦の手記から④
第33回	平成25年3月30日～6月27日	かるたで読む「戦陣訓」
第34回	平成25年6月29日～9月29日	小学生国史受験かるたの世界
第35回	平成25年10月3日～12月27日	大淀町学校支援地域本部 戦争カルタの世界
第36回	平成26年1月5日～3月27日	愛国百人一首を読む
第37回	平成26年3月29日～6月26日	日本統治下サイパンの日常から戦争へ 須藤氏手記1
第38回	平成26年6月28日～9月28日	爆撃の中の逃避行 須藤氏手記2
第39回	平成26年10月1日～12月27日	壕からかいまみた日本兵と米兵たち 須藤氏手記3
第40回	平成27年1月6日～3月29日	極限の日々から 須藤氏手記4
第41回	平成27年4月1日～9月27日	あの日から70年 追想の8.15
第42回	平成27年10月1日～28年3月30日	進駐軍と奈良 <i>Occupied Nara</i>
第43回	平成27年4月1日～7月19日	昭和15(1940)年、紀元2600年祭 — あなたは知っていますか? —
第44回	平成27年7月20日～11月30日	「奈良連隊」がいた光景
第45回	平成28年12月1日～29年3月30日	陸軍少年兵
第46回	平成29年4月1日～7月27日	戦勝記念図書館の記憶/記録
第47回	平成29年7月29日～12月27日	鉄道連隊
第48回	平成30年1月5日～3月29日	民博所蔵戦時債権の世界
第49回	平成30年3月31日～8月30日	陸軍特別大演習 於奈良・大阪
第50回	平成30年9月1日～12月27日	日清・日露戦争と奈良(「明治150年大和から奈良へ」の一部として)
第51回	平成31年1月5日～4月30日	昭和8年12月23日「祝皇太子殿下御生誕」の時代

令和元年5月

奈良県立図書情報館編・発行